

2018 vol.203 JAN

# SOUSAKE

創作手工芸



公益財団法人日本手工芸作家連合会

## 「手工芸文化」が目指すもの

公益財団法人日本手工芸作家連合会

会長 花村邦昭



わたしたちが営む日常生活の「場」でいちばん大切なのは誰にとっても家族・家庭ですが、その家族・家庭がいまあちこちで崩れかけています。その次に大事なのは人生の多くの時間を過ごす職場でしょうが、ここもA I 時代の到来によってこれまでの人間的仕事がI C Tによる計算処理システムによって代替されることとなって、人は息苦しい階層的秩序機構の中で憂鬱な無力感に苛まれることになるのではないかと危惧されています。

そうならないよう、家族・家庭や職場を本来の「新しい生命の甦りの場所」、「相互理解と連帯の原境」へと還す努力がいまわれわれに求められています。それには、「生活世界を感覚的に均衡させていく仕組みを自らが主体的に作り上げていく地道な作業」が求められますが、日本伝来の「“ものづくり”文化」こそが、そのための重要な役割を担うことになるだろうと期待されています。

「“ものづくり”文化」には「しつらえ」と「みたて」の調和美、「和」と「用」の実践知があります。自然と親和的に生きる術を見出す「生活総合美学」がそこにあります。「生活総合美学」とは、人と人、人

と場、場と場、などを繋ぐ「もてなし」の美学です。「もてなし」とは、「けじめ」と「つましさ」を巧みにバランスさせることでそこに「安らぎの空間」を共同創出することです。

いまわが国の伝統的「手工芸文化」が改めて見直されつつありますのもそういう時代の要請を踏まえてのことです。自然と共に生する“いのち”的「悦び」がそこにあるからです。手工芸作品が表現する宇宙リズム、自然摂理が現代社会人の生活に「潤い」をもたらすからです。生活の基礎にこの「悦び」「潤い」があればこそ、人はそれを心の支えとして「世間の荒波」「自己実現の物語世界」へと勇を鼓して出立することができます。「手工芸文化」はそのように深いところでわれわれの日常生活（家族・家庭や職場）を基底的に支えています。

わが「公益財団法人 日本手工芸作家連合会」が目指すのもそれです。

一、日本古来の「手工芸文化」の伝統に立ち還って、そこで紡がれる「美しい物語」によって、互いの情調を一つにまとめ上げ、そこを調和・安らぎ・くつろぎ・共感・浄化・悦楽・豊穣の場とすること、

二、他者と交わり、語り合い、共に働き、共に遊ぶことのなかで、互いのイメージをすり合わせ、修正し、そうやって互いのポテンシャルを開花させる筋道を互いに模索しながら、暮らしの本質や文化の精髓に覚醒していくこと、

三、そうすることで、互いに人格を高め合い、生活空間をふたたび「こころのふるさと」、「悦ばしい祝祭空間」へと還すこと、目標とするところは以上の3点です。

新年に当たり、皆さまのご健勝をお祈りし、いっそうのご活躍をご期待申し上げます。

# 第50回記念 創作手工芸展 講評

## 審査委員長 大 矢 紀 (日本美術院同人)



### 文部科学大臣賞

#### 「グラナダ」内田桃子

白麻のキャンバス地に深紅の刺繡糸で散らされた花文様。刺繡は「デシラント」と呼ばれる、スペイン地方独特の織細な糸抜き技法によると聞く。

スペイン南部アンダルシア地方のグラナダには、かつて栄えたイスラム文化の影響が色濃く残っている。この花柄の幾何学的な意匠に加え、主色はかつてヨーロッパの人々を魅了した深紅のトルコ赤。この地を旅した思い出と印象が、技法や形・色となって見事に結実した作品である。

(日本女子大学名誉教授 東京国立博物館  
客員研究員 小笠原小枝)

### 東京都議会議長賞

#### 「『祈り』13仏の世界」 猪股洋子

故人の人生を、優しく包み込むように、たなびく織細な横縞のグラデーションの染め。その地を背景に、穏やかな面差しの仏たちが、美しく浮かんでいる。冥福を祈る気持ちが、そのまま、黄金や白や赤の五彩の鮮やかさに現れている。手工芸という人間の営みが、魂の輝きを映し出すことを示した、優品である。

(多摩美術大学芸術学科教授  
芸術人類学研究所所長 鶴岡真弓)

### 大妻コタカ賞 「春はあけぼの」 田村紀子

津軽こぎん刺し特有の菱形模様を組み合わせながら構成されたデザインに、色鮮やかな色糸で考えられたグラデーションがされている。確りとした糸には照明により微妙な陰影が見られ、それによりグラデーションの色合いに深みが増して複雑で緻密な印象を与えてくれる。豊かな色彩感覚で春の暖かい光彩に包まれたあけぼの印象が上手く表現されている作品で、技術と現代的感覚が融合した秀作です。

(漆芸作家 田口義明)

### 審査委員長賞

#### 「こぎん刺しハーフコート」 川延節子

最近の創作手工芸展の出品作には、コギン刺しがいろいろな型で出てくる様になりました。それなりにローカル色が有り、又作者の思考、年令などにより、それぞれに感心することしきりです。どんな人がひと針、ひと針たんねんに夢の仕事をしているのかと考えながら拝見しています。今回の川延さんの作品は単なるコギン刺しではなく、糸はシルクのゴールドを使いリバーシブルと云う所が特徴です。紋様がとにかく美しいデザインです。

(公益財団法人日本美術院同人  
公益財団法人川崎市文化財団理事 大矢 紀)

### 日本手工芸作家連合会会長賞

#### 「50年を迎えて」 池田きみ子

左右相称の精緻に構成された連続模様が特徴の“遊佐刺し子”的伝統を踏まえつつ、それを斬新なデザインセンスで、動的に脈動する立体

構図へと展開された力量に敬意を表します。あたかも星々の輝く宇宙空間を遊弋するかのごとき高揚感を覚えます。

50周年の新たな門出に相応しい作品です。

(公益財団法人日本手工芸作家連合会)

会長 花村邦昭)

### 第50回記念賞 「ひびき」 池田節子

幾何学模様が織りなす布の重なり合いが生み出す模様と色調の変化を意図した作品である。そこには卓越した織と染の技法を駆使した結果でもある。作者はそれを「響き」という題名で表現している。見る者の視点の動きと、3層の布が存在する場は絶えず振動し呼吸して、微妙に揺らいでいる。そこに美を見出し、創作された作品は「第50回記念賞」に相応しい造形を表現している。(共立女子大学名誉教授 伊藤紀之)

### 奨励賞 「里山の陽だまり」 黒澤勝子

こぎん刺しという生活環境の必要性から、あみ出された刺繡の技法の中に技術的にも、また、色彩表現による立体感の中から、新緑の木々のこもれびや風の薫りが感じられる自然界の存在の中に心の豊かさ、暖かさを表現した作品に感動を覚えた。

(和洋女子大学名誉教授

櫻井映乙子)

奨励賞は4点で、それぞれ個性あふれる作品である。黒澤勝子さん「里山の陽だまり」は非常に爽やかな壁かけでも敷物にしても良い。後藤恵子さん「手描友禅染振袖 輝き」は従来の友禅感覚とは違う新しい赤と黄色が美しい。加瀬由美子さん「小江戸の想い」は絵画の様な感覚で拝見しました。土門コトさん「輝くみなも」は四角の中に色彩で美しいみなもと意表をつく。

佳作となった作品は大浜詩子さん「爽」は文字通り爽やかな色彩とデザインで見せている。小関文子さん「大久保茶羽織」は一見地味な感じであるが、よく見ると大変手のこんだ作品で作者の熱を感じる。召田晃子さん「ふるさとの家」はロマンあふれる家屋を夢の家として楽しむ美しい額の中に生かしている。

技術賞は各作家の見せ所である。松本志津美さんの「初舞台」は初めての舞台に着る衣裳に対するわくわくする気持ちが丁寧な仕事にあらわれている。藤本紫泉さん「水に棲む」は色調に特徴がある。あだち三和子さん「光と影シャドウフラワー」は白の諧調がこころよい。原田泰子さん「はな咲く丘へⅡ」は丹念な仕事が光る。さすがに技術賞の作家はそれぞれにしっかりとしている。

新人賞は飛澤栄さん「色彩の輝き」は赤を基調とした動物を楽しく配し、柴田展世さん「古代を想う」は銅鏡や古代デザインを組み合わせ、渡部晶子さん「紫陽花」は花の形を強調したシンプルな作で意表をつく。新しい人々の今後により期待したい。

特別賞は大木美津江さん「優艶」はしっかりした箱ものだが優雅な品である。中にどんな物が入るのか興味をおこさせる。以下18名でスペースの関係でお名前のみ記す事おゆるし願う。

(全作品は図録に掲載)

# 第50回記念創作手工芸展 受賞作品



文部科学大臣賞  
「グラナダ」  
内田桃子

1492年、イサベル女王とフェルナンド王はレコンキスタを完成させました。グラナダ「アルハン布拉宮殿」は、その妖しいまでの美しさゆえ破壊されることなく現存しています。

スペインに伝わるアラビア文様と美しいスペイン刺繡の認知度を高めたいと思い、タペストリー「グラナダ」を制作しました。

最高の賞を頂き心から嬉しく感謝しております。今後の制作活動の大きな励みとなりました。



大妻コタ力賞  
「春はあけぼの」  
田村紀子



東京都議会議長賞  
「『祈り』13仏の世界」  
猪股洋子



日本手工芸作家連合会会長賞  
「50年を迎えて」  
池田きみ子



第50回記念賞  
「ひびき」 池田節子

50回という節目の年に、この様な素晴らしい賞をいただきましたことは、大変意味深く感慨無料でございます。誠にありがとうございました。作品は3枚の布の重なりで構成し、「のり型染」の技法で制作しました。展示方法により3枚が響きあう効果を意図しました。



審査委員長賞  
「こぎん刺しハーフコート」  
川延節子



奨励賞  
「輝くみなも」  
土門コト



奨励賞  
「手描友禅振袖 輝き」  
後藤恵子



奨励賞  
「里山の陽だまり」  
黒澤勝子



奨励賞  
「小江戸の想い」  
加瀬由美子



佳作  
「ふるさとの家」  
召田晃子



佳作  
「大久保茶羽織」  
小関文子



佳作  
「爽」  
大浜詩子



新人賞「紫陽花」渡部晶子

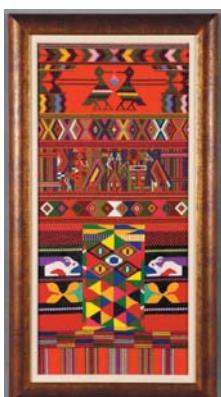
この度は新人賞をいただき感激しております。中1から4年間青森市に住んでいた私はようやく時間ができたので津軽こぎん刺しをしてみたいと思い鎌田久子先生の教室に入りました。この作品は、枠模様に入つてすぐの頃、主を失っても実家の庭で咲く紫陽花に心を動かされ、一気に刺したものです。新人賞ありがとうございました。これからも楽しく作品を作り続けたいと思います。

新人賞「古代を想う」柴田展世

この度は、新人賞を頂きとても感激しております。日本刺繡の色彩や柄の繊細さにひかれ、絹糸をよるところから一歩ずつ教えて頂き、桜の花びら一枚から、刺繡を始めました。

この作品は、古鏡の緑青の感じを表してみたいと思い、紺色で繡い切りした上に、紫・緑・グレー・青色等を密に重ねてみました。

これからも心を込めて作品を作つてまいりたいと実感しております。ありがとうございました。



新人賞「色彩の輝き」飛澤栄

この度は新人賞を頂きましてありがとうございます。この作品は大きさ、手法と初めての事ばかりで、どうしていいかわからない状態から仕上げたものです。受賞は驚きと感激でした。欧風刺繡の奥の深さ、すばらしさをこれからも作品に込め、表現出来る様努力をしたいと思います。刺繡の基礎から丁寧にご指導して下さった教室の先生に感謝。ありがとうございました。

# 平成29年度 活動報告

## ●第50回記念創作手工芸展の開催と授賞式・懇親会のご報告

第50回創作手工芸展は、平成29年5月29日から6月4日まで東京都美術館にて開催されました。特に今回は、当連合会創立50周年事業の一環として開催される形で企画され、例年同様の一般公募に加え、過去の本展で高い評価を得られた思い出の傑作作品の特別出展と、当連合会の創立に深くかかわられた故大妻コタカ先生ゆかりの手工芸作品である三上草抄先生・古山キン先生ご制作のビン細工作品5点（大妻女子大学博物館所蔵）並びに外山ハツ先生ご制作の刺繡作品2点（函館大妻高等学校所蔵）を特別にご提供いただいたことで、大変見ごたえのある展覧会を実現することができました。

加えて50周年記念展にふさわしい企画として、作家先生方のご協力による本格的なチャリティーバザーコーナーの開設や、共立女子大学名誉教授で第50回記念創作手工芸展の審査委員でもあられる伊藤紀之先生による本展初の「ギャラリートーク」を並催した結果、期間中の総来場者数は3799名に上るなど、正に創立50周年記念事業の一環たるにふさわしい盛況裡のうちに幕を降ろすことができました。

また恒例の授賞式と懇親会も創立50周年記念式典の中の重要な部分として開催され、いつもの華やかさに厳かさも加わった式次第に関係者一同深い感懷を新たにいたしました。詳しくは当連合会発刊の「創立50周年誌」に記載されていますので、ぜひご高覧下さい。



## ●秋篠宮妃殿下 第50回記念創作手工芸展をご高覧

平成29年6月1日（木）午後3時 東京都美術館で開催中の第50回記念創作手工芸展に秋篠宮妃殿下がお成りになりました。妃殿下は作品をご鑑賞されながら、ふと、受付の作家の方に作品はどれですかとお声をかけられ、ご感想をのべられるなど、和やかな会話に会場に笑みがこぼれました。また、特別展示作品のビン細工を御覧になると、関係者にお声をかけられ、細やかなご配慮やご見識の深さに感動しました。

作家の方々の労をねぎらう妃殿下の優しい笑顔に癒されました。

## ●チャリティーバザー報告

平成29年5月29日(月)～6月4日(日)開催の「第50回記念創作手工芸展」に於いて、当連合会会員有志により同時開催されたチャリティーバザーは、大盛況のうちに終了いたしました。ご参加、ご協力いただきました皆様に御礼申し上げます。

売上金の一部を今年度も熊本地震義援金として熊本県に寄付し、この企画の目的を達成することができました。また、今年の「第51回創作手工芸展」に於いてもチャリティーバザーを開催いたしますので会員の皆様のご参加をお待ち申し上げます。詳細は、連合会事務局まで。

## ●当連合会創立50周年記念特別企画 「山形研修会」 のご報告

当連合会では創立50周年記念特別企画プロジェクトとして、当連合会理事で山形県の遊佐刺し子の研究・制作を指導しておられる土門教室の教室長 土門玲子先生のご協力を得て、昨年初秋に山形研修会を実施いたしました。

「山形における創作・精神文化の系譜を訪ねて」というテーマで公募実施されたこの特別研修会は、9月7日から9日までの2泊3日の旅程で実施され、16名の皆様が参加されました。

初日の正午に庄内空港に到着した一行は土門先生らのお出迎えを受け、まずは地元の酒田料理に舌鼓を打ったあと酒田相馬楼の舞娘演舞を鑑賞、そのあと酒田山王くらぶでの郷土手工芸名物「吊るし雛」の大展示を視察しました。そこから宿舎に向かうバスの車窓からは、庄内平野を黄金色に染める庄内米の見事な実りが絵のように美しく展望でき、さすがは米どころ庄内との印象を目の当たりにしつつ無事にホテルに到着。

会食前の16時55分から18時20分前までの1時間半に「遊佐刺し子とその歴史」研究会代表の佐藤いづみ先生から「遊佐刺し子とその歴史」という演題でのご講演を拝聴。その後の懇親夕食会には土門教室の生徒さんも大勢参加され、各テーブルは山形弁あり、東京弁あり、関西弁ありの大盛り上がりとなりました。

2日目は山形の創作と精神文化に浸る旅程で、創作面では遊佐刺し子教室でのお稽古の様子と伝統の技術を駆使しての個性的な作品制作の実際を目の当たりに見学。また精神文化面では羽黒山神社での出羽三山神社参詣、鳥海山頂ご本尊薬師如来が安置されている龍頭寺参拝、さらには即身仏の鉄門海上人が安置されており小説「月山」の舞台ともなった湯殿山注連寺にもお参りし、この地域独特の山岳宗教の信仰形態に触れ得た貴重な機会となりました。

最終日は、この地域の自然の美しさに触れるために鮭の俎上や湧水で有名な牛渡川や丸池様の見学に始まり、地元の有名酒蔵や鶴岡市内致道館・致道博物館などを歴訪し、2泊3日の全旅程を無事に終了、庄内空港をあとにいたしました。

この全行程に亘って土門先生はじめ地元関係者の皆様方には本当にお世話になり、おかげで忘れられない素晴らしい研修会となりましたことに衷心よりお礼を申し上げます。

## ●伝承 山形遊佐刺し子著書紹介

タイトル	著者名	発行年月	出版社
1冊目 遊佐刺し子に遊ぶ	佐藤いづみ・池田ちゑ・土門玲子	2006年7月	株小松写真印刷
2冊目 続・遊佐刺し子に遊ぶ	"	2009年11月	"
3冊目 完極の遊佐刺し子「第3弾遊佐刺し子に遊ぶ」	"	2017年11月	"

# 事務局だより

## ●(公募)第51回創作手工芸展のご案内

会期：平成30年5月29日(火)～6月3日(日)

会場：東京都美術館 ギャラリーC

募集期間：平成30年2月19日(月)～5月10日(木)

・ギャラリートーク開催：5月31日(木) 13:00～13:30

「チャリティーバザー」同時開催

第51回創作手工芸展に於いてチャリティーバザーを開催いたしますので、会員の皆様のご参加をお待ち申し上げます。

## ●平成29年度資格免状取得者

資格名	資格者氏名	科 目	資格名	資格者氏名	科 目
講 師	平 井 聖 美	押絵	高等科	佐 藤 美 代	遊佐刺し子とパッチワークキルト
講 師	佐 藤 由美子	フラワーデザイン	高等科	真 山 典 子	スマッキング刺繡
講 師	高 住 千恵美	つまみ・吊るし手芸	普通科	五十嵐 悠美子	遊佐刺し子
講 師	三 浦 かすみ	スマッキング刺繡	普通科	佐 藤 ヲヨシ	遊佐刺し子とパッチワークキルト
講 師	大 塚 こずえ	スマッキング刺繡	普通科	佐 藤 美 代	遊佐刺し子とパッチワークキルト
高等科	五十嵐 悠美子	遊佐刺し子	普通科	真 山 典 子	スマッキング刺繡
高等科	佐 藤 ヲヨシ	遊佐刺し子とパッチワークキルト			

## ●新入会員紹介 (平成28年10月～平成29年9月、敬称略)

ピョジョン(韓国) 豊田美佐子(埼玉県) 五十嵐悠美子(茨城県) 住吉玲子(神奈川県)  
峯崎マミ子(千葉県) 斎田和子(千葉県) 大橋美代子(東京都) 松岡たか子(東京都)  
渡部晶子(東京都) 福留理恵子(東京都) 飛澤栄(東京都) 黒澤勝子(埼玉県)  
金子文(東京都)

## ●平成30年度 講習会のお知らせ (前期4月～9月)

開催日	講 師 名	テ ー マ	会 場	時 間
4/14(土)	神 山 康 子	カルトナージュ	京橋越前屋ビル	10:30～15:00
6/9(土)	佐久間 恭 子	アクセサリー	京橋越前屋ビル	10:30～15:00
7/14(土)	内 田 桃 子	刺繡	京橋越前屋ビル	10:30～15:00
9/8(土)	松 本 志津美	スマッキング刺繡	京橋越前屋ビル	10:30～15:00

## ●新理事の紹介 平成29年度の役員はホームページに公表しています。

女子美術大学名誉教授 佐久間恭子

## ●50周年記念御寄附者 H29年3月～H29年11月(50音順・上：団体／下：個人、カッコ内は寄附金口数)

ディー・エム・シー株式会社様、 株式会社東京堂様、 株式会社九電工 東京本社様  
ダイダン株式会社様、 大和綜合印刷株式会社様、 ヤマ産業株式会社様  
カトレア支部及び木庭慶子様・召田晃子様(16)、 松濤支部様(10)  
あだち三和子様(2)、池田節子様(2)、石井とめ子様(5)、猪股洋子(4)、上田佳子様(1)  
植原たい子様(1)、内田桃子様(2)、梅田けい子様(1)、海老澤光夫様(2)、大木美津江様(1)  
大塚昌子様(1)、片山理恵子様(20)、木嶋真理子様(10)、齋藤美代子様(1)、佐藤由美子様(1)  
田中澄江様(1)、田中ひとみ様(2)、長岡フミ子様(1)、芳賀栄子様(1)、増田栄子様(2)  
道家絢子様(2)、召田晃子様(4)、本橋雅恵様(5)、山見博康様(6)、渡邊弘子様(2)  
匿名9名(19)

(ご芳志をいただきまして厚く御礼申し上げます。引き続きご寄附の受付を致しております。ご支援ご協力お願い申し上げます。)

## ●次回発刊 SOUSAKU 204号は平成30年10月を予定しています。

会員の皆様の活動状況を掲載しますので、8月末までにお知らせ下さい。

## ●表紙作品：内田桃子 「グラナダ」

(第50回記念創作手工芸展 文部科学大臣賞受賞)

## 編集後記

当連合会の運営は会員の皆様からの会費、ご寄附により支えられています。手工芸の世界に関わっている皆様、愛好家の皆様、これからもご支援ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

発行日／2018年1月吉日

発 行／公益財団法人日本手工芸作家連合会

〒101-0052

東京都千代田区神田小川町3-6-10

MOビル 407号室

TEL 03-5282-5141 FAX 03-5282-5140

E-mail:info@syukogei-sakka.or.jp

URL http://www.syukogei-sakka.or.jp/